

【グループワークテーマ:強度行動障害支援について】

※共通検討内容:①講話についての質問 / ②北部圏域の課題について

■ A グループ

- 人員・体制の課題
 - 放課後等デイサービス等でのマンパワー不足による受け入れ制限や、体力が強くなる中高生に対する体制確保の難しさ。
 - マンパワー不足から警察対応に頼らざるを得ない学校の現場状況。その対応で果たしてよいのか。
 - 加算がついたとしても、人材不足解決や事務負担軽減には直結していない。
- 家族・利用者の状況
 - 利用回数が減ることで家族(特に高齢の祖父母など)の負担が増大している。
 - 本人は皆と一緒に過ごしたい希望がある中での個別対応の難しさ。
- 行政・制度への要望
 - 県のワーキンググループの動きなど、今現場で困っていることに対する即効性のある対応・対応策を求めている。

■ B グループ

- 支援連携・資源の課題
 - 家庭や学校、事業所間での統一した支援展開・連携の難しさ。
 - 受け入れ先(資源)の不足や、相談・アドバイスを受けられる場の不足。事業所があっても受け入れを断られる現状がある。
- 情報整理・広域利用
 - 広域でサービス利用しているケースがある。
 - どの事業所が強度行動障害に対応可能かがひと目でわかる事業所一覧などの整理・共有が必要。

■ C グループ

- 研修・制度に関する質問・疑問
 - フォローアップ研修の対象者要件やステップアップ研修との違い、修了による加算要件について。
 - 連絡調整会議の具体的な流れや、「医療と福祉」の連携・関係性について。
- 地域課題
 - 受け皿の不足。
 - 現状の課題把握や協議を行う場が不足しており、地域全体の状況が見えづらい点。

■ D グループ

- 判定・アセスメントの課題
 - 判定方法や対応にバラつき・差がある。
 - 子どもと同席しないまま実際の様子が見られない状態で判定が出されている点への疑問。
- 研修・環境づくりの効果
 - フォローアップ研修の実際の効果や、家庭・事業所で同じ環境づくりをしていくことの重要性。
 - 1 年間の具体的な実践例・事例の共有があるとよい。

■ E グループ

- 基準・アセスメントに関する質問
 - 強度行動障害加算の基準や判定表の付け方(最も状態が悪い時を想定して評価するのかなど)、および途中で再検討の可否。
- 事業所・選択肢の不足
 - 特に成人の受け入れ事業所が少なく、保護者の選択肢が限られている。
 - 利用が終了して抜けるわけではないため利用者は増え続ける一方であり、就労等の場も不足している。
- 理解啓発・保護者支援
 - 強度行動障害に関する周囲の理解促進や、保護者向け講演会・お知らせなどの取り組みの必要性。

■ F グループ

- 理解・知識の不足と環境要因
 - 強度行動障害の行動・状態への理解不足、および周囲の環境設定(個室・パーティションの活用など)における課題。
- 人材育成と会議体制への期待
 - 人材育成に向けた研修機会や、具体的事例への対応力の強化。
 - 今後設置・運用される「強度行動障害支援 調整会議」に対する期待。